〈研究短報〉

# 「学校」をベースにした子ども家庭支援の実践に関する国際比較研究

## ～スリランカ国コロンボ市近郊における初等中等学校で展開されているスクールソーシャルワークの活動を手がかりに～

小林理[*1]・谷口幸一[*1]・菅野和恵[*1]・妻鹿ふみ子[*1]・阿部正昭[*1]
児玉千代子[*1]・田中美加[*3]

## Ⅰ．はじめに

スリランカ国などのアジア諸国は、経済成長を遂げつつある中で、わが国における地域社会や家族形態の変化と共通する変化をもちながらも、異なる状況をみせていくことが想定される。筆者をはじめとする研究チームでは、スリランカ国・国立社会開発研究所（以下、NISDとする。）のソーシャルワーク部門との連携のもと、これまで主に人口の高齢化に焦点をあてた研究を進めてきた（2014年度健康科学部特別研究補助）。そこで、今回、地域や家庭状況の変化がすすむスリランカの状況下、わが国が経験してきた子どもをめぐる環境の変化はいかなる関係にあるかについて検討することとした。

社会変動が進むスリランカ国において、子どもたちが生活の中で抱えている課題（貧困、虐待、家庭不和、親子間葛藤など）を中心にその実態を把握しつつ、それらの課題にソーシャルワーカーや他専門職がどのように関わっているのかを調査し、わが国との比較研究を行った。今回の研究では、わが国のスクールソーシャルワークおよび障害児の教育制度の現状と課題について整理し、スリランカ国の同テーマの現状を把握し、両国の研究者が共有し議論することで今後すすめる調査研究の課題発見を行うことを目的とした。さらに、同国コロンボ市近郊にある初等中等学校及び高等学校のソーシャルワーカー、教師等の実践の状況について現地視察により、実践状況の情報収集を行い、両国の共同研究への足がかりをつかむことをめざした。

## Ⅱ．研究方法

研究対象は、日本とスリランカ国におけるスクールソーシャルワークの制度及び実践の現状と課題を対象とした。方法は、①文献研究、②二国による国際研究セミナー開催、③現地視察、の三点の方法により行った。①については、先行研究、社会統計、行政文書等の収集と論点の整理を行った。②については、両国の研究者が①の成果をそれぞれ発表するとともに、意見交換を行った。その際、現地の児童福祉および教育実践関係者への公開セミナーとして実施し、参加者とも意見交換を行った。③については、現地においてスクールソーシャルワークの実情を、小学校、中学校、高等学校を訪問し、実践状況を視察した。研究期間は、2014年12月から2015年２月であり、現地を訪問し、セミナーや視察を行ったのは、2015年２月17日から２月20日であった。倫理的配慮として、日本社会福祉学会研究倫理指針（日本社会福祉学会2010年４月）を遵守した。

## Ⅲ．研究結果

研究成果としては、次の五つであった。１）事前に日本国のスクールソーシャルワークおよび特別支援教育制度の現状と課題について、文献研究を中心に情報収集し整理を行った。わが国では、1980年代に私的実践としてすすみ、2000年代にモデル事業として展開された。その後、2008年から2009年に事業体系、予算措置、資格制度が整備された。しかしながら事業の実施は、あくまでも自治体（都道府県や市町）による事業に予算補助を行ってきたことにより、全国統一の制度や専門業務の標準化

＊１　健康科学部社会福祉学
＊２　同看護学科
＊３　北里大学

がすすめられてこなかった課題があることがわかった。また自治体の予算により不安定な雇用状況となっていることや、地域のさまざまな児童と家族の抱える課題に教育専門職との連携の課題があることがわかった（Kobayashi, 2015）。２）事前に日本の特別支援教育の現状と課題について、文献研究を中心に情報収集した。日本の義務教育制度の特徴、特別支援教育のカリキュラム、費用や教科書等の状況、就学援助費の現状について整理することができた（Kanno, 2015）。また、特別支援教育の場として、特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室があり、いずれも在籍児童生徒数が増加していること、中でも、特別支援学校の高等部、自閉症スペクトラム障害を対象とした特別支援学級、さらに、自閉症スペクトラム障害、学習障害および注意欠如多動性障害を対象とした通級指導教室の増加傾向が顕著であることがわかった（Kanno, 2015）。３）１及び２の情報収集を発表資料にまとめ、現地の国際共同研究セミナー（２月18日）において、発表を行った。セミナーでは、筆者および共同研究者の菅野による日本側の報告と、Gowry Vasudevan 氏（NISD Senior Lecturer）、Dr. Pameela Peiris 氏（Freelance Social Work Consultant）、W.M.Dhanapala Wijesinghe 氏（Senior Lecturer University of Sri Jayewardenepura）の３名のスリランカ国側の報告があった（Vasudevan, 2015）。４）現地セミナーにおいて、スリランカ国のスクールソーシャルワーカーの現状と課題について発表を聴き、参加者と情報交換を行った。その際、同国コロンボ市近郊の児童福祉および教育関係者を中心とするセミナー参加者を10名程度に3つのグループに分け、それぞれ「スクールソーシャルワーク実践における課題と変革の可能性」をテーマに討議を行い、討議結果を報告し共有することができた。５）現地においてスクールソーシャルワークの実情を、小学校、中学校、高等学校を訪問し、視察するとともに、教員、スクールソーシャルワーカーにより実践の実情についての説明を得ることができた。

## Ⅳ．考察

以上のような、日本の状況の報告、スリランカ国の状況の報告、現地視察、意見交換をとおして、今後のさらなる研究課題の発見があった。具体的には、スリランカ国のスクールソーシャルワークのニーズとして、低所得世帯の稼業にともなう子どもの影響が出ており、教員では対応できない生活支援ニーズがあること。それにも関わらず、現地のスクールソーシャルワークサービスが、NGO 団体の資金援助に依存する実態があること。いったんはじまった支援サービスが資金面で継続が難しくなっていること、等の課題が明らかとなり、今後のさらなる積極的な現地調査が必要となることがわかった。

本研究は2014年度健康科学部特別研究費の助成を受けて実施した。

### 参考文献

Gowry Vasudevan（2015）: The Seminar on School Social Work organized by the National Institute of Social Development in collaboration with the Tokai University, Japan -Summary of the Seminar Proceedings, NISD（未刊行）.

Kanno, Kazue（2015）: Education for Children with Special needs in Japan, Seminar on School Social Work, NISD（口頭報告）.

Kobayashi, Osamu（2015）: School Social Work in Japan -Support Systems for Family with Children, Seminar on School Social Work, NISD（口頭報告）.